

2015年度  
インターンシップ等実務者研修会

研修会の成果とインターンシップ等の将来に向けて  
－専門人材育成を通じた国際標準への道－

文部科学省  
産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業委員会 委員  
加藤敏明

本研修会の趣旨

# 中堅大学と中小企業の連携

(就業力GP)2010-11



# 地域内の大学間連携

(産業界ニーズ事業／テーマA)2012-13



# 連携に向けた専門人材の内発的育成

(産業界ニーズ事業／テーマB)2014-15

3

「連携に向けた専門人材」とは  
—国際標準に向けて—

# キャリア教育

(狭義、座学中心)



# インターンシップ等

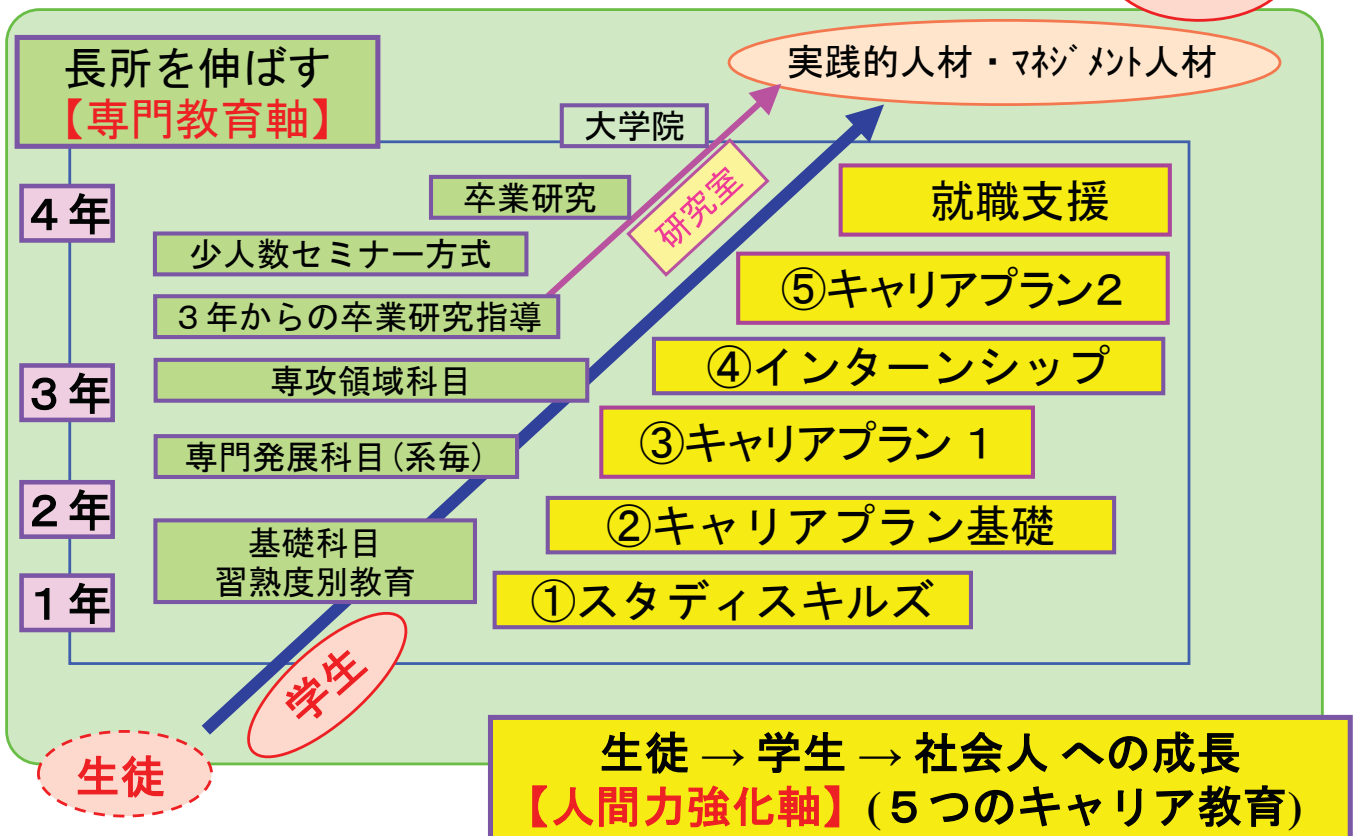
(インターンシップ、サービスラーニング、実習など)



# 専門教育の底上げ

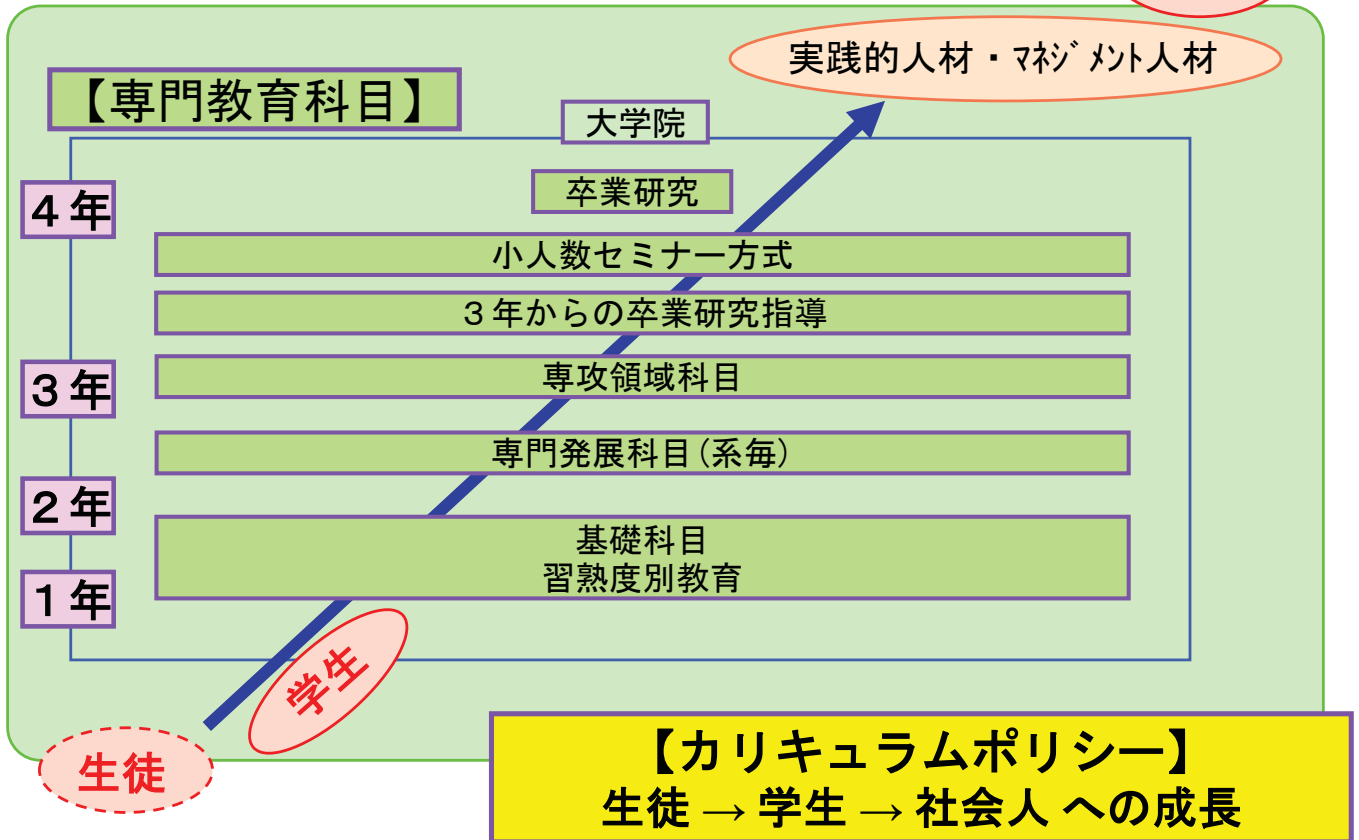
## 研修大学のキャリア教育

社会人



# 欧米大学のキャリア教育(イメージ図)

社会人



## インターンシップ等の国際標準

専門教育

複合的プログラム

中・長期間

有償

採用直結

実行できる教職員(専門人材)

# 我が国における専門人材の現状

－2014年度研修会を振り返って－

## 開発A型(対 産業界)

教員系／魅力的なインターンシップ等の開発力に優れる

## 開発B型(対 学生)

教員系／学修意欲を喚起する教育力に優れる

## 管理者型

教職員系／トップダウンでインターンシップ等を推進する

## 調整型

教職員系／学内、学外の調整力に優れる

## 業務遂行型

教職員系／運営上のあらゆる業務に精通する

●どのようにして育成されたか

基本はOJT

大学間連携を活用する

外部の専門人材を採りこむ

実践的な教育の評価システムを導入する

若手教員の研究領域に組み込む

トップダウンで適材を配置する

職員系列でロールモデルを創り出す

11

「関西、九州地区研修会2015」の成果  
—取組プロセスを中心に—

● 錦の御旗を立てながら <京都産業大学> 学内組織構築

2000年に、教育(授業)の限界を感じた教職員数名が夏休みに意見交換

社会でも錆つかない根幹的実力の育成を目指す

2002年に独自のインターンシップをスタート

文科省GPに積極参画

①組織に負荷 ②組織内の理解深める

2004年からトップダウンで職員を学内スカウト

13

● 教育効果への疑問から <新潟大学> 複合型長期IS

2011年に、インターンシップ先で受け身の学生を確認

調査の結果、主体性の欠如が明白に

受入者と意識を共有1(地域会議の開催)

受入者と意識を共有2(企業向け研修会の実施)

事例集の発刊

事前研修で他の学部教員を巻き込む

14

●キーパーソンを見つけ出せ <同志社大学> 全学型PBL

2006年に、文学部主導で「プロジェクト科目」開講

優秀な教務課長に白羽の矢

気鋭の副学長と直談判

全学開講科目として整備、拡充

2009年に大学教育推進プログラムに採択

わずか6名の優れたスタッフで効率運営

15

●生徒を学生に育て上げる <金沢工業大学> 能動型教育

1995年に、「就職に強い大学」づくりに着手

高校の理科と変わらぬ講義に着目

改革は、企業出身教員と優秀な職員がけん引

「教員も面白いと感じる授業」に行き着く

学生に明確な変化が

「就職に強い金沢工業」を実現

16



●一人では耐え切れない、が端緒 <名古屋産業大学> 危機管理

2012年に、インターンシップ派遣学生が事故に遭遇

一人の教員が現地に向かい対応

危機管理マニュアルの必要性を痛感

経験豊かな教員の指導で「組織対応」を確認

窓口の一本化と危機レベルの判定を協議

レベル1～3の緊急連絡網を構築

17

●教職協働を推進 <福岡工業大学> 大学混成型長期IS

2009年頃、「就業実習」履修生の少なさが問題点として取り上げられた

就業力育成プログラムに「就業実習」を位置づけた

学生に学科目であることを認識させた(教員主導)

「就業力GP」を契機に教職協働を推進

各領域で専門性を発揮

履修生増とともに魅力的なIS開発へ

18

●生き残りをかけて <西九州大学> 実践教養教育

2010年の就業力GPが契機

多様な資質がありながら受け身の学生

教育への危機感⇒地域に活路

実践教養科目群「あすなろう体験」開講

教職員に恩を感じ始めた学生たち

学生ばかりか教員も地域に温かく迎えられる

19

●レベル低下に向き合う <九州産業大学> 学修意欲喚起

2006年に、海外研修でチャレンジ精神を植え付けられる

学内外の仲間と積極的に交流を図る

良質な情報をもとに教育手法を転換

縦割り担当から共同担当へ

1～4年生対象の32単位演習科目へと拡張展開

履修学生はやりたいことを見つけて就活へ

20